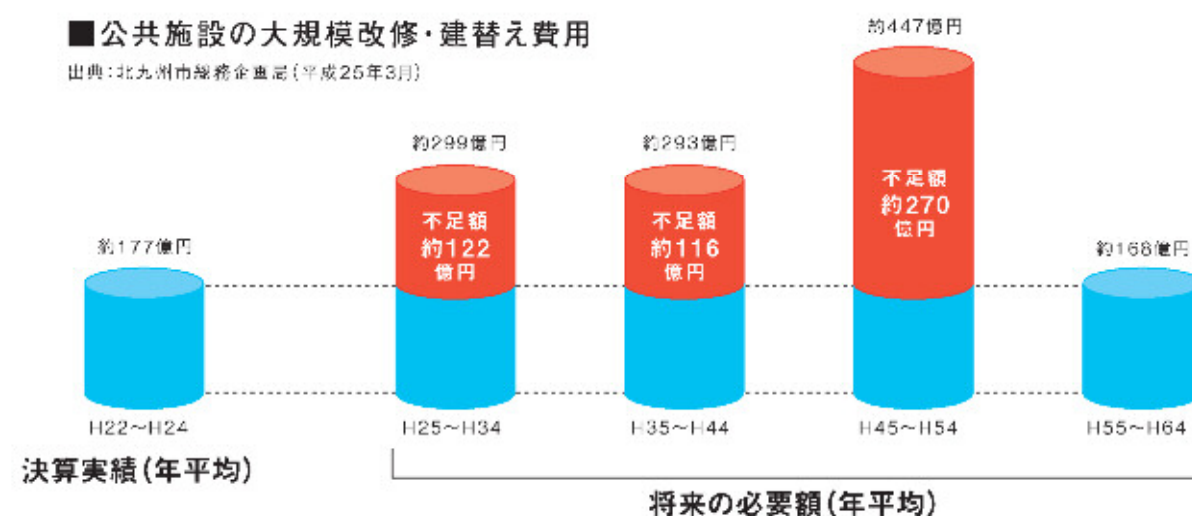


- 大規模改修や建替えには多額の費用が必要であり、近年の財政水準では大幅に不足
- 「公共施設マネジメント方針」として、少なくとも、今後 40 年間で保有量を約 20%削減することを目指している



「北九州市公共施設マネジメント方針

（平成26年2月）」策定

- 少なくとも、「今後40年間で保有量※を約20%削減する」ことを目指す。
※市が保有する施設量（延床面積）
- 施設分野別の実行計画(平成27年度末までに策定)等を推進する
- 門司港地域、大里地域のモデルプロジェクトにおける公共施設再配置計画づくりを進める。

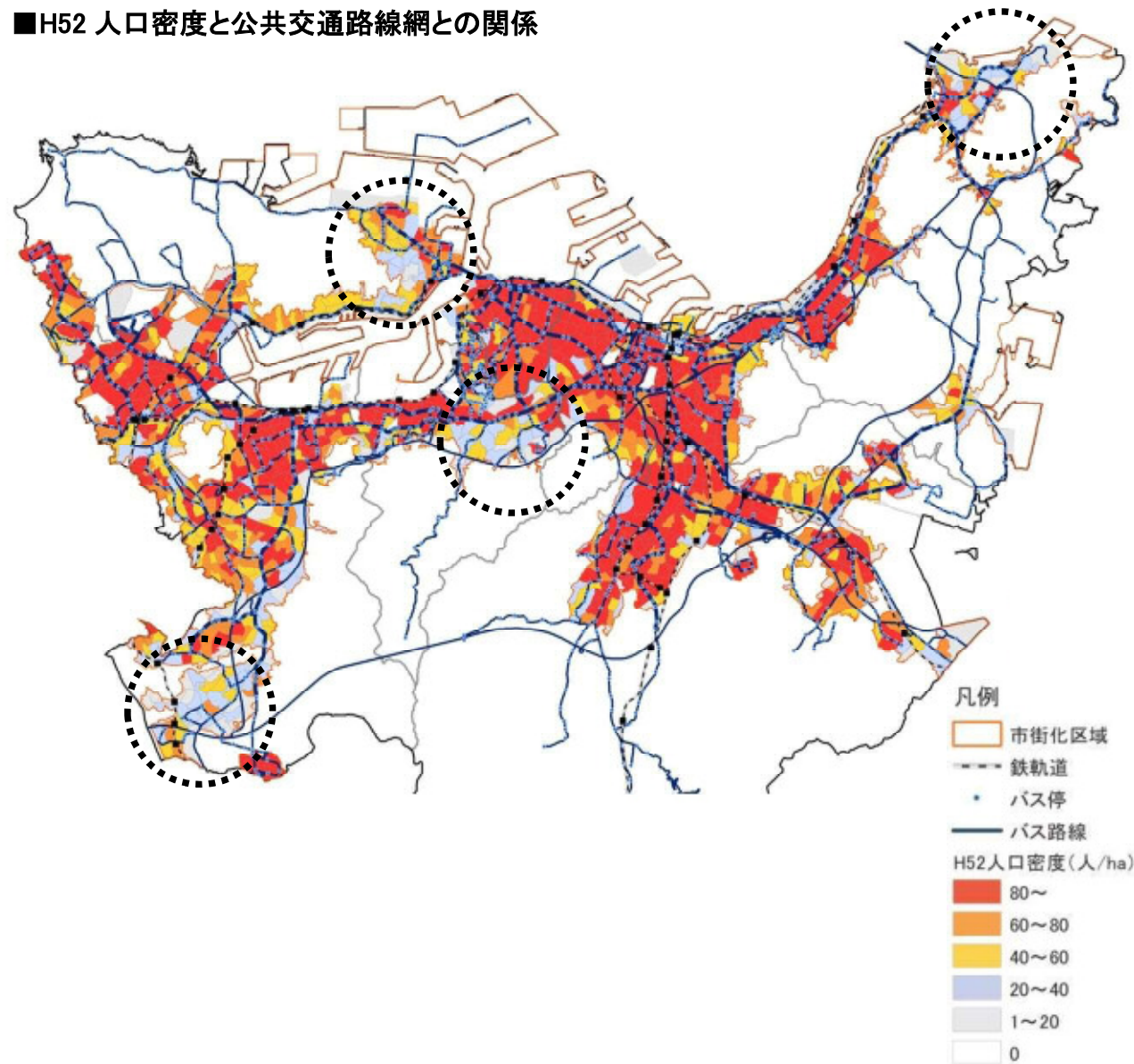
出典：北九州市「公共施設マネジメント」パンフレット

1-2-7. 将来人口からみた都市構造

(1) 公共交通の利用圏

○ 人口密度の低い地域では、公共交通のサービス水準の低下が懸念

■H52 人口密度と公共交通路線網との関係

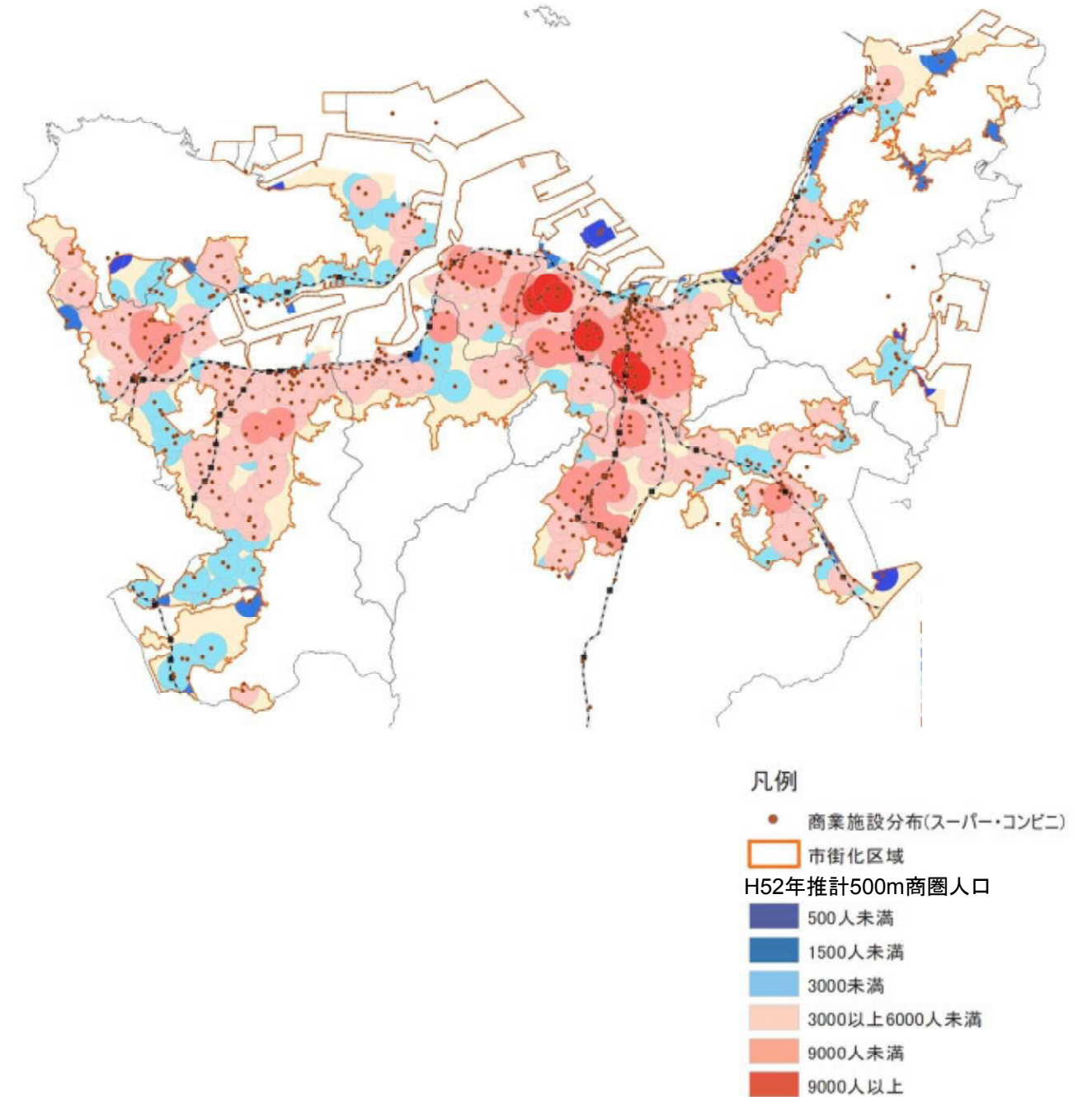


注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

(2) 生活サービス施設(商業)

○ 今後、身近な商業施設(コンビニ・スーパー)の利用圏人口が減少し、施設の存続が困難となれば、いわゆる“買い物弱者”の増加が懸念

■身近な商業施設(コンビニ・スーパー)の立地と500m 商圏人口(H52 年)



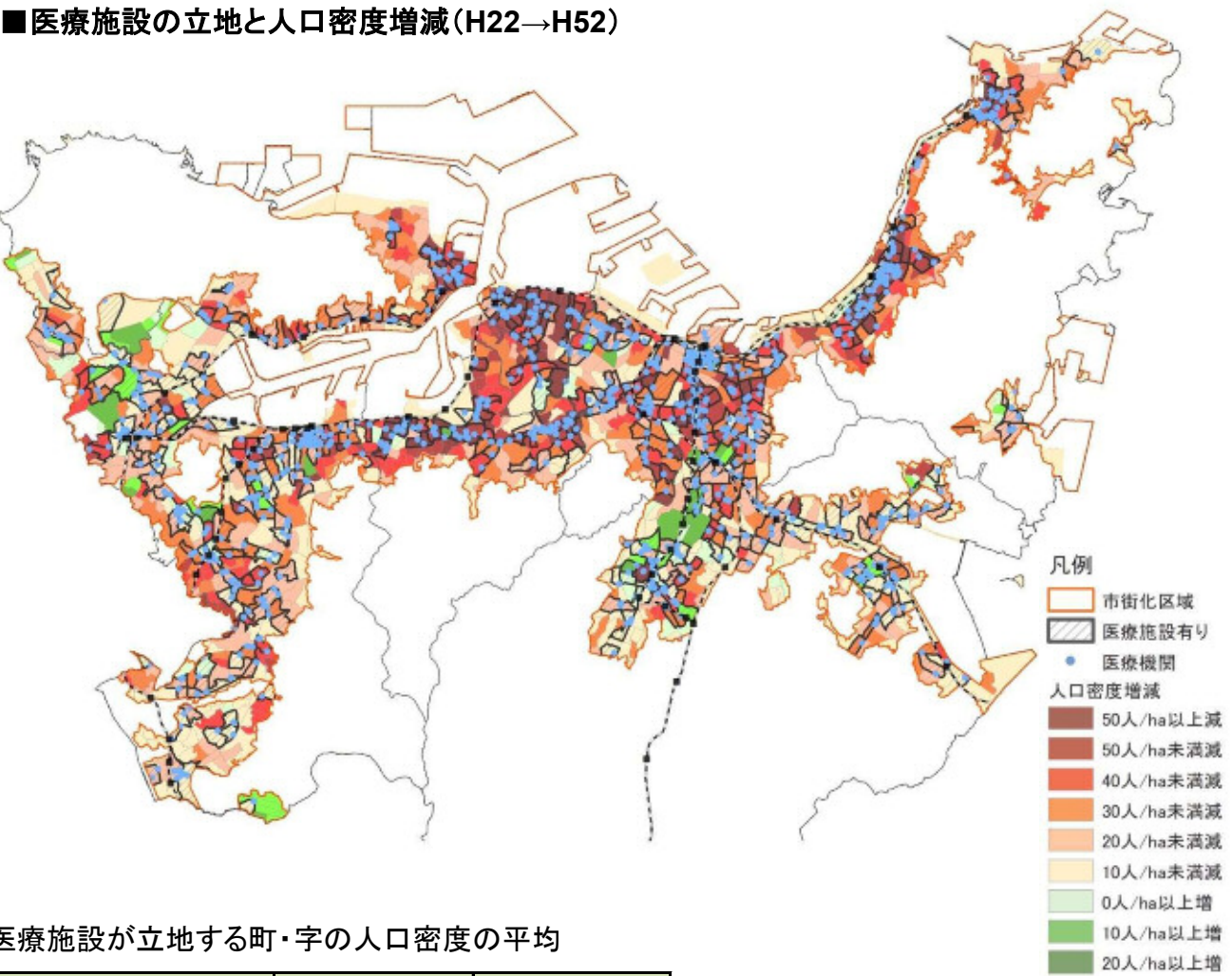
注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成

注) 商業施設は各企業 HP の店舗一覧をもとに北九州市作成

(3) 生活サービス施設（医療）

○ 身近な医療施設が集積している地区において、人口密度の減少が大きく、これらの地域では、施設の存続が困難となれば医療サービス水準の低下が懸念

■医療施設の立地と人口密度増減(H22→H52)



医療施設が立地する町・字の人口密度の平均

	H22 (人/ha)	H52 (人/ha)
施設が立地する 町字人口密度(平均)	133	108

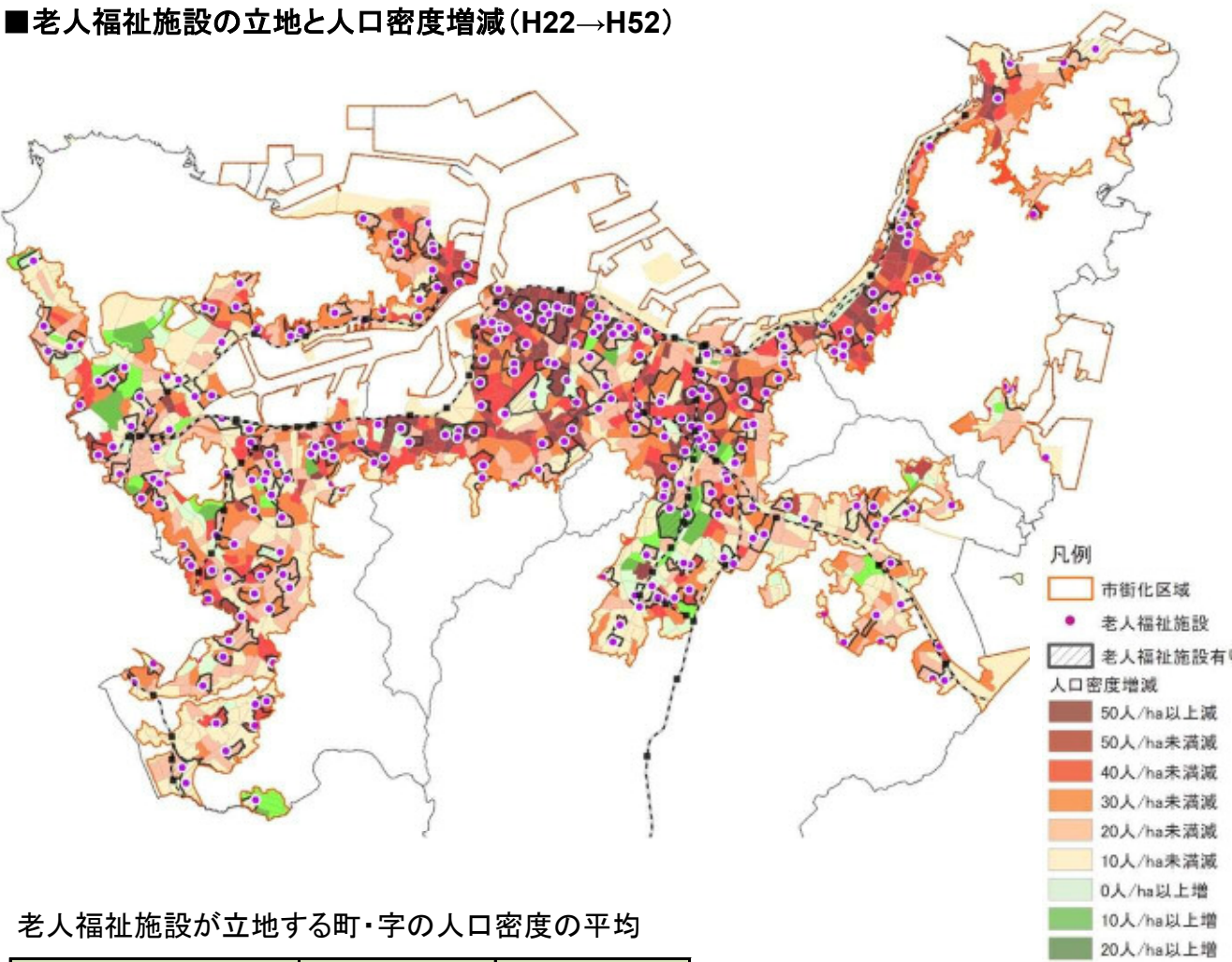
※対象は、施設が立地する町字523地区

注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成
出典: 国土交通省「国土数値情報(医療機関)」

(4) 生活サービス施設（老人福祉）

○ 今後、老人福祉施設の利用圏人口が減少し、施設の存続が困難となれば医療サービス水準の低下が懸念

■老人福祉施設の立地と人口密度増減(H22→H52)



老人福祉施設が立地する町・字の人口密度の平均

	H22 (人/ha)	H52 (人/ha)
施設が立地する 町字人口密度(平均)	121	95

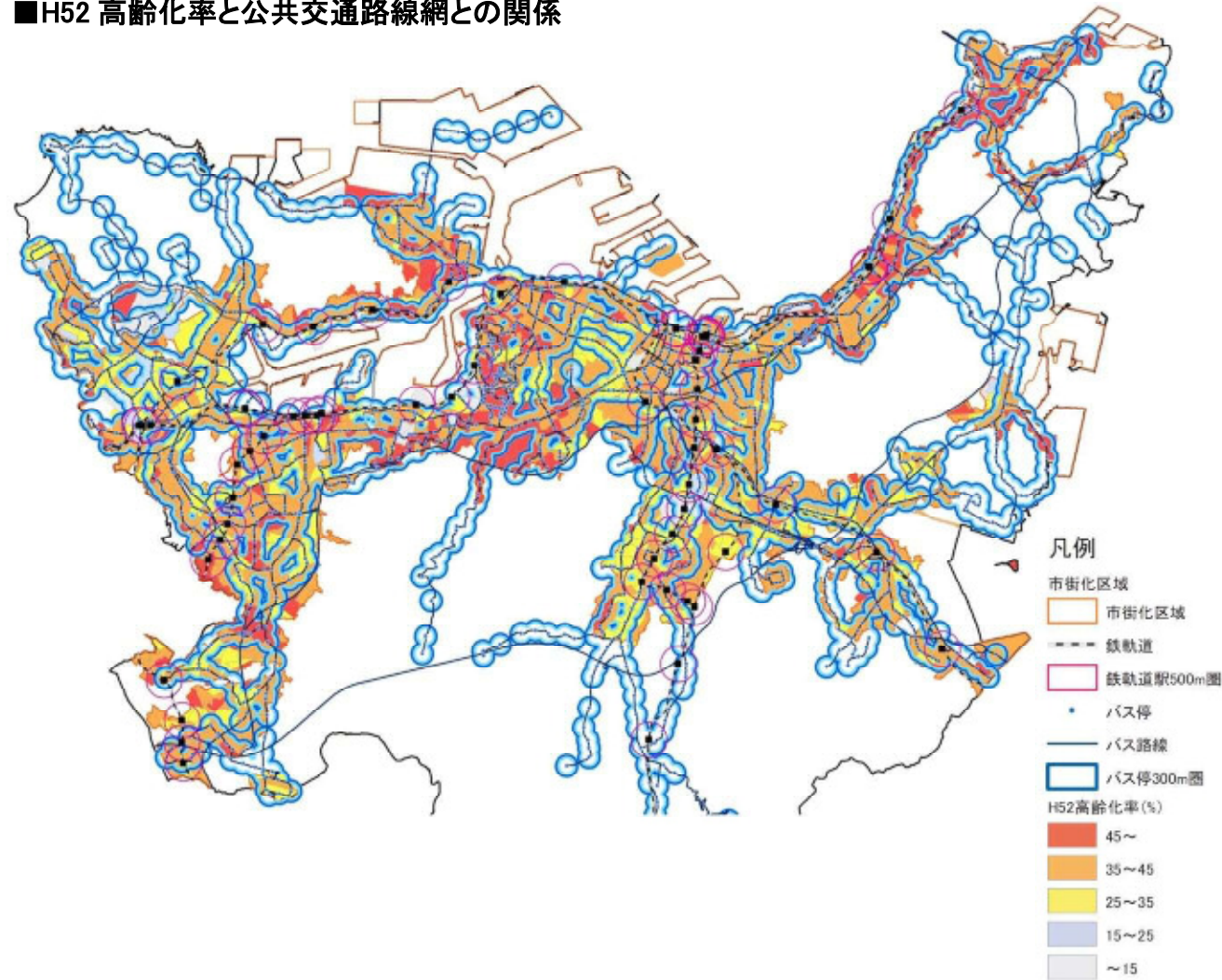
※対象は、施設が立地する町字255地区

注) 平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成
出典: 老人福祉施設は国土交通省「国土数値情報(福祉施設)」

(5) 高齢化率と公共交通路線網

- 高齢化率が高い地域を、必ずしも、公共交通がカバーされておらず、高齢者の外出機会の低下が懸念

■H52 高齢化率と公共交通路線網との関係

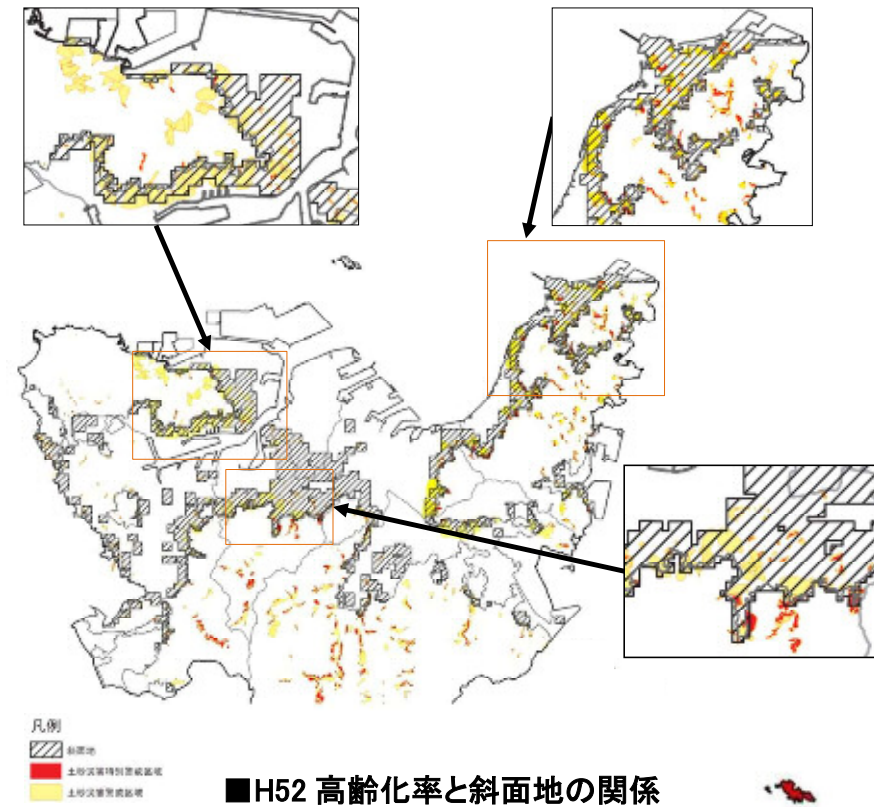


出典:国土交通省「国土数値情報(バスルート・バス停留所(H23))」

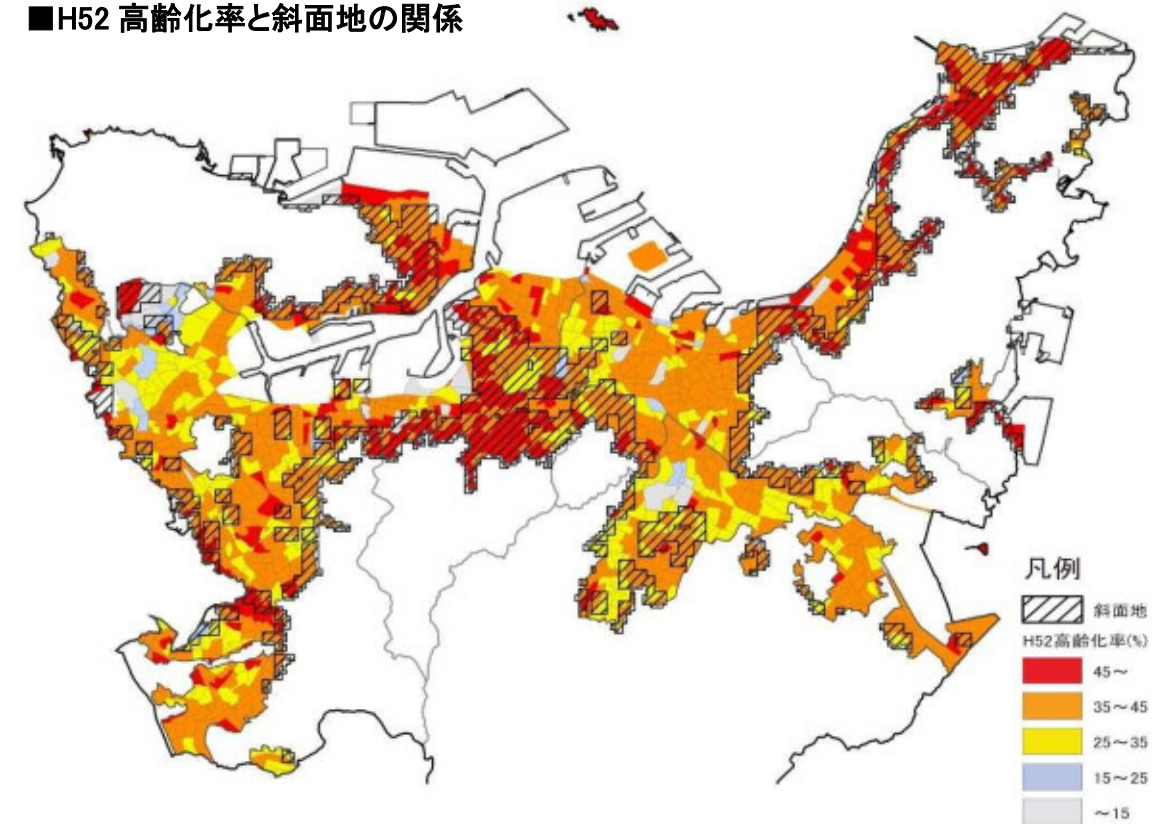
(6) 地形(斜面地)と高齢化率

- 斜面地には、土砂災害警戒区域も多く、高齢化率も高いことから、災害発生時の避難対応など、地域の自助・共助力の低下などが懸念

■斜面地と土砂災害警戒区域の分布



■H52 高齢化率と斜面地の関係

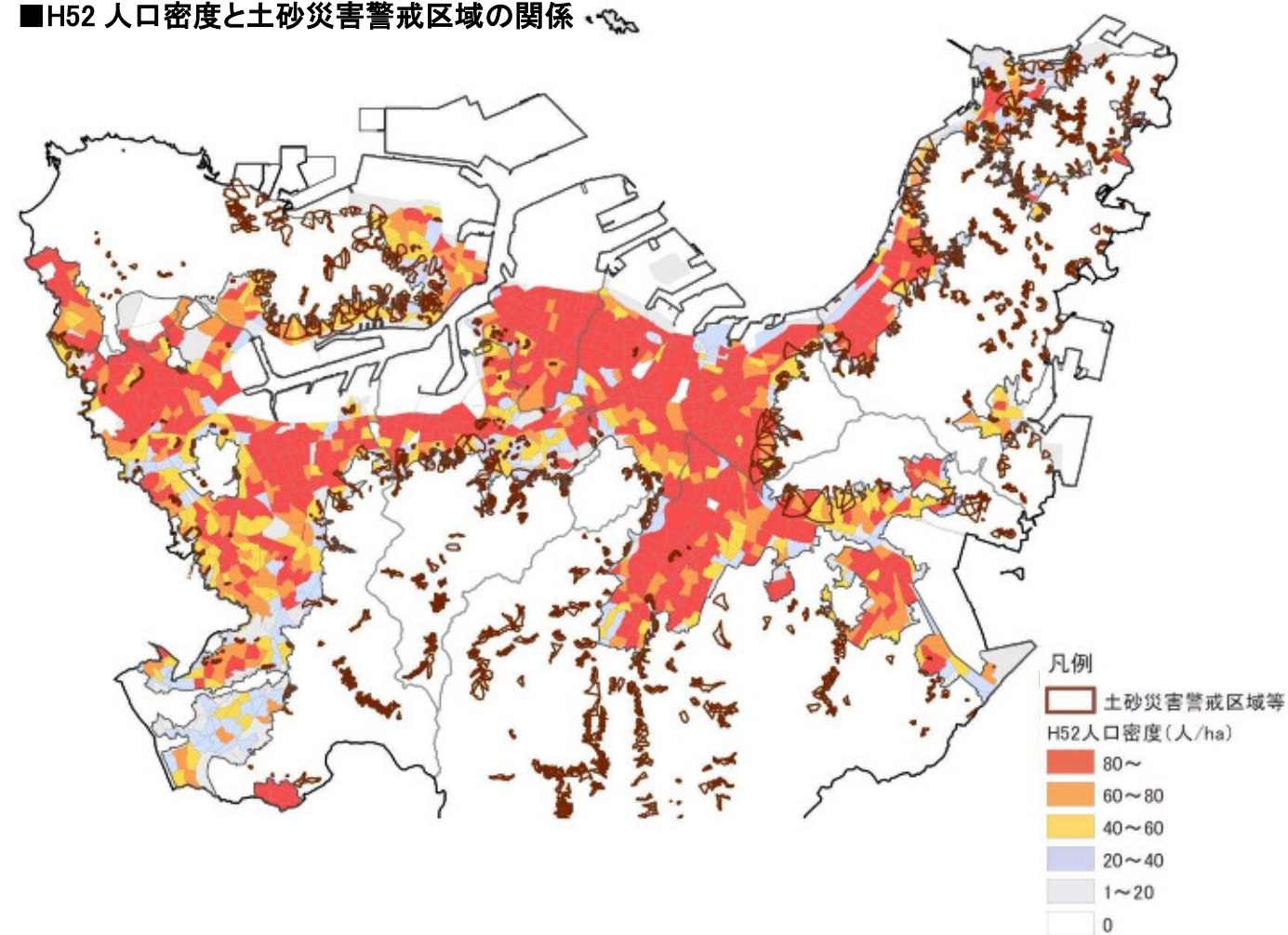


注)平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成
 注)斜面地は国土交通省「国土数値情報(標高傾斜度 5 次メッシュ(H23))」をもとに平均傾斜角度 5 度以上メッシュ地域を作成
 出典:福岡県「土砂災害警戒区域等」

(7) ハザード地域と人口分布

○ 土砂災害警戒区域等に指定されている地域には、将来、人口密度が高いと推計される地区もあり、被災が懸念

■H52 人口密度と土砂災害警戒区域の関係



注)平成22年国勢調査を基準とし、「国立社会保障・人口問題研究所 H25.3 推計」に準じて北九州市にて作成
出典:福岡県「土砂災害警戒区域等」